

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 24-006

PDCA	事務事業名	半田運河周辺整備事業	部課等名	建設部都市計画課 都市計画担当	担当	林		
					内線等	446		
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第4章 安全で快適に住み続けられるまち 節： 第3節 うるおい空間の形成 基本施策： 2. 景観形成 単位施策： (2) 景観形成重点地区の整備 個別施策： ①景観整備の推進						
	根拠法令等	—						
	対象・目的	半田運河を訪れる市民や観光客がイベントやまち歩きを楽しんでいただけるよう、周辺の景観形成を推進する。						
	目的を達成するための手段・活動内容	半田運河周辺において、社会資本整備総合交付金を活用し、景観に配慮した街路灯や運河周辺の回遊性向上を目的とした人道橋の整備を行う。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①街路灯の設置数		-	3	-	基	
		②橋梁（人道橋）整備事業の進捗率		-	-	19	%	
		事業費		-	6,620	25,839	千円	
		人件費		-	4,347	4,629	千円	
		総事業費		-	10,967	30,468	千円	
		活動単位当たりのコスト		30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①街路灯1基あたりのコスト			3,656	-	千円	
	成 果	成果指標		30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①街路灯の設置数	実績値	-	3	-	基	
			目標値	-	3	-		
		②橋梁（人道橋）整備事業の進捗率	実績値	-	-	19	%	
			目標値	-	-	19		
			実績値					
目標値								
C 課題の整理		観点別評価	必要性		有効性		効率性	
	①市の関与の妥当性		妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない	
	②市民ニーズ		高い	⑤成果向上の余地	ない			
	事業の評価・課題	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—	
		C						
		景観形成重点地区であり、半田の歴史と文化を象徴する場所である半田運河において、市民や運河を訪れた観光客等の回遊性を高め、更なる賑わいの創出を図るために設置する人道橋の設計について、周辺の景観に配慮したデザインとすることができた。						
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	現状維持						
		令和3年度中の完了を目指し、計画的に工事を進める。橋の名称については、市民に親しみを持ってもらえるよう、公募により決定する。						
	令和3年度の目標	成果指標			目標値	単位		
		①橋梁（人道橋）整備事業の進捗率	目標値	100	%			
			目標値					
	目標値							